No.72

Newsletter

The Friendship Force of Aichi

発行 2007 年 6 月

4 月 4 日～8 日にわたりアジア・パシフィック・フェスティバルが名古屋で開催されました。大会は、国内外からの参加者が 4 日間で延べ 600 人を越える盛大なものとなりました。この模様は、別途特集号でお知らせすることにいたします。

また、5 月 23 日～30 日までカルガリークラブから 20 名のアンバサダーを受入れ、交換を行いました。カルガリークラブへは 2005 年に当クラブが訪問しており、再会を喜びあいました。今回の相互訪問実現で両クラブの友好をさらに深めることができました。

ED　加藤紀子

Audrey & Dave と加藤さん

バラの咲く五月、カナダ・カルガリーから２０名の皆様が愛知にお越しになりました。ちょうどそのころ、私的とはいえ難題を抱えており、ED という大役をお受けすることには、不安もありました。が、なんとか無事に空港までお送りすることが出来ました。これはひとえに、事務局をはじめ、周りの皆様のお力ゆえ、と感謝しております。

当初、先方とのやり取りに不安を感じた私は、受け入れ態勢に支障をきたしては、という思いから AED に相談。適切な支援を受けることで、円滑に手はずを整えることが出来ました。FF 愛知という組織は非常に成熟しており、今回の私の経験は「ED はどんな人でも、どんな状態でも務まる」ということを証明する良い例になったのではないかと思います。

近年、英語の得意なメンバーは増えてきていますが、語学の得意、不得意にかかわらず、ぜひ、ED を担当されてはいかがでしょうか。今回の私のように、必ずや、言いようのない達成感に浸ることができるでしょう。

今回考えたのは、大自然の美しさやボブスレー体験など、2 年前にとても心に残る思い出を作ってくださったカルガリーの皆様に、どんなお返し、おもてなしが出来るだろうか、ということでした。例えば、古き日本の象徴でもある奈良の街は、カルガリーの皆様の目にはどんなふうに映るだろうか、と。ところが、愛知の産業技術記念館の最先端技術から、奈良時代の匠の技まで「まるでタイムスリップしたかのように日本の技術を目の当たりにした」と満悦していただけたようで、嬉しく思っています。

最後になりますが、今回のエクスチェンジの成功は、多くのホストファミリーの皆様、メンバーを送迎してくださった皆様、その他、多くの方のご協力のおかげと、心から感謝いたしております。本当にありがとうございました。

帰国後、アンバサダーが母国カルガリーで日本・愛知の楽しい思い出を、家族またはお友達にお話し、FF を通じて、各国の親睦の輪がますます広がることを期待したいと思います。

5月23日爽やかな陽気の中、カナダからのアンバサダー20名がおそろいの帽子の姿でセントレアに現れました。2年前に訪問した懐かしい顔の人たちです。

カナダの皆さんは皆とても元気でした。我が家にステイしたLarryとMargも、とても75歳には見えません。大変元気で、毎日朝早くに坂道の多い我が家から1時間ほどの公園へ行き、そこで体操をしている人々と会話をしたりウオーキングをし、名古屋での短い時間を楽しみ、交友を深めていました。

日曜日にはB.B.Qパーティを我が家の庭で開きました。天気にも恵まれ、近所の友達や隣の家族やハワイから来ているウクレレの教師Davidとその生徒、私たちFFメンバー4名を含め総勢20名にもなり、ウクレレを弾き、歌やフラダンスの踊り等で夜遅くまで楽しいひと時を過ごしました。

Margが自分で作成したBetween Friendsというキルトを土産に頂きましたが、このキルトはMargが趣味を活かし今回のために作って持参したものでした。

日本とカナダを結ぶBetween Friendsのキルトは、今、我が家に壁掛けとして飾ってあります。このキルトを見るたびに、お互いのFriendshipを思い起こさせます。

白木ご夫妻とLarry & Margret

In friendship

白木　裕己

ポトラックパーティに参加しました

宮本　操枝

わたしは、入会間もないが、かって、カルガリーを観光したことがあり親近感を持っていたので、是非、交流したいと思い参加した。青葉若葉茂る名城公園の一角。天守閣を望む藤棚の下。会員が持ち寄った料理が並べられた。“天くう”率いる太鼓の轟きとともにパーティが始まった。勇壮な響きにしばし見とれた。と同時に感嘆の声も聞えた。音の静まりを合図においしいランチを食しながら歓談。
続いてクイズタイム。出題と同時に答えが一斉にでて、賞品渡しに苦労していたようだ。
そして打ち掛けの着付けのデモンストレーション。アンバサダー達は順番も待ち遠しいようだった。皆、自身の姿にうっとり。満面の笑顔でカメラにポーズをとり記念撮影。

パーティ終了後は名古屋城見学。皆さん桜の季節の頃のお城にも大変興味を持っていた。
「ホストがとてもよくしてくれる」「日本での生活を楽しんでいる」「明日の出発が寂しい」というアンバサダーの声が聞かれた。

こうして、思いやりと笑顔をもって楽しんでいる会員の方々や、アンバサダーを目のあたりにすることができ、わたしは今後も参加したいと思った。

おいしそう！
どれにしようかナ

日本のお嫁さん
いいねェ

惚れなおしたヨ

ダーリン・どお？

カルガリー受け入れ　思い出のアルバム

5月23日～30日

ホストとアンバサダー

Erikaと青山さん

服部さん　Bernice & Bill

Gail 武藤さん Ron

土居さんとElla

鷹野さんとTerry & Aro

大津さんとJoan & Allan

太鼓の演奏に興味深々

うまい！

花笠音頭は
むずかしいワ

カルガリー交換反省会より

出席者：25名

A.→カルガリークラブのメンバーの気持ちの良い人柄に楽しい交流が出来た。

B.→ホストは年齢を重ねるにつれ、疲れやすくなったがデイホストの協力のお陰で楽しくホストが出来た。

C.→今回は2日間デイホストをして交流を楽しんだ。1日目は水族館、希望により名古屋ドームの見学。2日目は「なばなの里」夜はホストと一緒に夕食を楽しんだ。魚の正しい食べ方を披露した。

D.→ホストをする前に家の内外の掃除が大変だった。1日乗車券を使っての市内観光は良かった。

E.→アンバサダーはデイホストと過ごして帰宅した時はいつも「とても楽しかった」と報告がある。デイホストに感謝。

F→公園でのポトラックランチは多くの人が交流を楽しめる良い企画だった。今後も継続して欲しい。

G.→デイホストをする前にあらかじめホストの家の下見をしておいた。お陰で余裕を持って迎えに行けた。

H.→ホストとデイホストが迎えに行く時間など、前もって打ち合わせが必要だった。（デイホストは9時～10時頃ホスト宅へ迎えに行き、夕食を済ませてから送り届ける。これは原則であり双方で相談する）

I.→前の交換クラブ（郡山）からの交換情報が大変参考になった。

J.→クラブ全体で良いプログラムがあるので助かる。

その他（案）

▽今後、更にホストの負担の軽減と、より多くの会員に交流をしていただくため「ディナーホスト」を導入したい。

＊事務局からのお知らせ＊

★カルガリー交換記録

アンバサダー：20名

ホスト：11名　デイホスト　14名

アッシー君：7名

プログラム

23日（水）到着

24日（木）企業見学

25日（金）奈良バスツアー

参加者37名　参加費：6,500円

26日（土）ウエルカムパーティー

KKRホテル

参加者61名　会費：4,000円

27日（日）フリー

28日（月）フリー

29日（火）ピクニック＆名古屋城見学

参加者62名

30日（水）出発

・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

★渡航プログラム：ED　土居陽子

ペンシルベニア＆ノースキャロライナ

9月21日（金）～10月4日（木）

★中部ブロック会議

愛知クラブ担当　9月1日（土）

★日本大会

山口クラブ担当　10月20日（土）

★新入会員

・尾村忠雄　半田市　紹介：淡河迪子

・中村郁子　半田市　紹介：加藤紀子

・鏡味進次　尾張旭市　紹介：山田晴久

▽APFは会員一人一人の努力によって成功裡に終わりましたが、カルガリー交換はAPF効果を実感した素晴らしい交換でした。

編集後記

4月にAPF、5月にカルガリー受け入れ･･･と、慌しく日々が過ぎました。すでに梅雨に入りましたが今年はカラ梅雨？気になるところです。

APFの感想文は、この号に掲載予定でしたが、多数の方々から寄稿があり、特集号を組むことになりました。現在、編集を急いでおりますので、もうしばらくお待ちください。

＜ 広報委員：佐藤　白木　山田 ＞

編集・発行　：FF愛知
ホームページ：http://homepage2.nifty.com/FF-Aichi/
事　務　局　：〒470-2101
愛知県知多郡東浦町森岡祖母懐15-37
Tel & Fax 0562-83-8341
鷹野晴子